

広報 UNOYAMA

第 3 号

発行所 黒埼村役場
発行人 清水善夫
印刷所 小野塚印刷所



農業構造改善事業ライスセンター敷地起工式 (小平方分)

〈村民の動き〉

5月末現在	
人口	16,926 人
男	8,280 人
女	8,646 人
世帯数	3,665 戸
4月末から5月末までに	
死亡	7 人
出生	29 人
婚姻	31 組

農業構造改善事業(ライスセンター施設)起工

センター施設)起工

改善事業は驚愕して難産だった。一時は、流産するのではないかと、また一時は、胎内の子、母体とも危険な状態にさらされた。しかしこの子は将来村の農業の発展のために、生まなければならぬ。幸い皆さん方の温かいご協力で立派な男の子が生まれてう

れしい。どうかこの子がすくすく育つように今後も、関係機関団体のご協力をお願いしたいとあいさつされた。

文字どおり農政について今、暗い雲ゆきである。しかし、これに対応していくには、農民の強い意志が必要である農業近代化施設の充実により協同化、農業化の促進こそ農業基本法に込める道であり、また、急務と考える今年の収穫時には共同生産体制が仕組まれ、黄金の稲穂の中でコンバイン、ライスセンターが大きく吠動する日を夢みたい。

農業の憲法として、日本農民の限らない拍手で誕生した、農業基本法も既に十年となった。当時にぎにぎしく出発したが、農家自体、或いは一部農業指導者等、その意義を充分理解しているであろうか。この事業は決して夜空にひらめく一発火花でない筈である。俺が部落に関係ない、他地域のことだからと、目をそむけてよいだろうか、なるほど農業をとりまく情勢は大きく変化し、特に米作り農家に対する風当りは強い、ともあれ本村農業構造改善事業を必ず成功させようとの関係機関の決意で漸く実ることが出来たことは、本村農業史に意義深い。

去る六月二日本村小平方部落に本事業の最終年度であるライスセンター(共同穀乾燥施設二九一・六平方米)の起工式が催された。

肌寒い風の中で村長の心をこめた鞞入れの儀がなされ村長は

お産に例えたなら本村の構造

米の過剰ムード等で米の生産調整の推進、水田転用の促進等農政は一大転換期に直面している今日、本村も都市化の波は次第に大きくなり本年産水稲作付面積は生産調整面積、水田転用面積、他市町村への移動面積等を合せると約六十ha余りが前年より作付減となる見込みであり、金巻部落の水田面積に匹敵する規模で本村農業史上かつてない姿である。特に寺地、山田、鳥原、金巻地区での農地転用は拡大する一方で、これに付随して都市化の影響が各地に現われている。先般鳥原地区の水田で油類による稲の被害が発生している。面積は一〇アール程度であるが減収割合はかなり大きくなる見込みである。被害の直接の原因は不明であるが、何者かが農業用水路に油類等を流したこ

とは事実のようである。農地転用許可を受ける条件としてはいくつかの項目がつけられているが、農地保全の条件がそのなかの必須項目である。即ち農地転用許可を受けようとするものは附近の農地及び畜舎等に被害を及ぼすことのないよう十分の施設や考慮を払わなければならないことになっていく。ここで特にお願い申し上げたいことは水田地帯にある住宅団地の方々、国道等の沿線の工場等の方々へ、もう一度農地転用許可条件を十分ご認識いただき、附近の農業用水路に汚物類危険物等を絶対捨てないようくれぐれもお願ひ申し上げ、農地保全と環境衛生の面からも、全村民が僅かながで被害を未然に防止し、住みよい村づくりにご協力をお願い申し上げます。(農政課)